

一の年度に入学した者のうち、標準修業年限以内で修了した者（満期退学者を除く）の占める割合

【注釈】

- ・ 計算式：標準修業年限で修了した者の数÷標準修業年限（2年制課程であれば2年）前の入学者数
- ・ 休学期間は修業期間に含めている。
- ・ 満期退学者とは、課程修了要件のうち、当該課程に在学中に、論文の審査及び試験に合格することのみ満たすことができず、当該課程を退学した者を指す。
- ・ 早期修了者については、標準修業年限内修了者に含めている。
- ・ 長期履修者は、標準修業年限で修了した者に含めない。

創発科学研究科修士課程（標準修業年限2年）

2023年度入学者	92.3%
-----------	-------

医学系研究科臨床心理学専攻修士課程（標準修業年限2年）

2023年度入学者	100.0%
-----------	--------

【分析及び解説】

2023年度入学者の11名全員が、修業年限内で修了しました。

医学系研究科看護学専攻博士前期課程（標準修業年限2年）

2023年度入学者	92.3%
-----------	-------

【分析及び解説】

本表において修了者に長期履修者は含まれません。2023年度入学者13名のうち未修了者の1名は長期履修者であり、それ以外の12名は全員、標準修業年限内に修了しています。

農学研究科修士課程（標準修業年限2年）

2023年度入学者	90.5%
-----------	-------

教育学研究科専門職学位課程（標準修業年限2年）

2023年度入学者	95.7%
-----------	-------

【分析及び解説】

1名が3年間の長期履修学生制度を活用して小学校教諭免許状を取得するコースに在籍していたためである。3年間の履修により、本人の目的とした小学校教諭免許も取得でき採用試験にも合格して修了した。

一の年度に入学した者のうち、標準修業年限以内で修了した者（満期退学者を除く）の占める割合

【注釈】

- ・ 計算式：標準修業年限で修了した者の数÷標準修業年限（2年制課程であれば2年）前の入学者数
- ・ 休学期間は修業期間に含めている。
- ・ 満期退学者とは、課程修了要件のうち、当該課程に在学中に、論文の審査及び試験に合格することのみ満たすことができず、当該課程を退学した者を指す。
- ・ 早期修了者については、標準修業年限内修了者に含めている。
- ・ 長期履修者は、標準修業年限で修了した者に含めない。

地域マネジメント研究科専門職学位課程（標準修業年限2年）

2023年度入学者	82.8%
-----------	-------

【分析及び解説】

本研究科はビジネススクールであり学生の多くが有職者であること（その中には勤務先からの派遣が一定数含まれる）、給付条件に標準修業年限での修了を含む厚生労働大臣指定教育訓練講座「専門実践教育訓練給付制度」を利用する学生が一定数存在すること等により、標準修業年限で修了する者の割合が高くなる傾向がある。例年、個別の事情により休学・退学・長期履修する学生が若干名存在するが、2023年度入学者の該当者は5名であり、標準修業年限修了者の割合は例年よりも低い値となっている。

工学研究科博士課程（標準修業年限3年）

2022年度入学者	42.9%
-----------	-------

医学系研究科看護学専攻博士後期課程（標準修業年限3年）

2022年度入学者	0.0%
-----------	------

【分析及び解説】

本表の修了者数に長期履修者は含まれません。2022年度入学者の状況につきましては、1名が長期履修を選択し、もう1名は有職者として業務多忙により期間内の修了が困難であったことが主な要因となり、修業年限内修了者は0名（修了率0%）に留まりました。

医学系研究科博士課程（標準修業年限4年）

2021年度入学者	38.5%
-----------	-------

【分析及び解説】

本表では、休学期間が修業年限に算入されます。本課程は有職者が大半を占めており、業務多忙による未修了や休学が主な要因となり、2021年度入学者26名のうち修業年限で修了出来た者は10名と、修業年限内修了率は38.5%に留まりました。なお、前年度の修了率は37.0%であり、数値はおおむね横ばいで推移しています。